

昭和鯨城会便り

特別寄稿

次年度の高年大学に想うこと 地域ミーティング昭和区担当教授 櫻井 隆司

高年大学が仕分けで廃止と出てから丸2年が経ちましたが、大幅な見直しのもとに、これから4年間の指定管理も、名古屋市社会福祉協議会が引き続き行うことになりました。多くの課題を抱えながらの新しい出発です。私が学園で分掌上関わっている学生会でも、4クラス増に対応して、体育祭・文化祭・クラブ活動の開催場所や運営に根本的な見直しが必要となり、今年度の行事を取り組みながら並行して新しい方法を模索しています。まずは4月当初にクラブ説明会とクラブ登録があり、増員に見合うクラブを新設し、5階ホールにほとんど空席なく座る新入生を、希望クラブへ集め抽選や登録を行う具体的な方法をシミュレーションしなければなりません。



しかし、何よりも心配していることは、効率論が優先して大幅な見直しが進んでいる中で、鯨城の伝統である「共に喜び語り合う、共に与えて生かし合う、共に伸ばして助け合う」（学生歌より）人の輪に歪みが出てこないかということです。特に来年度は今まで通りの28期生と、新しい制度で入学してくる29期生との間に、意識の面でも大きなギャップが生じる可能性があります。その意味では、28期生は大変な引き継ぎ役を担わされていることとなります。悲観論に走るべきではないと思いますが、鯨城OBの方々にも現場におけるこうした難しい状況をご理解いただきながら、今後も学園や学生を支えていただけることをお願いしたいと思います。

今夏も仕事の合間に見晴台遺跡発掘へ10日程通いましたが、さすがの猛暑に軽い熱中症になったようです。慣れているつもりでも、年相応の動き方を考えないといけないようです。

昭和鯨城会半期を振り返って 昭和鯨城会会長 25期（園芸）御器所 北川 勝彦

今年は10月なつても気温は30度を超え、台風が続く異常気象でした。皆様お変わりございませんか？4月30日に総会が開催され今年度の鯨城会がスタートしました。気がつけば早くも半分以上が経過していました。私は今迄を振り返って見て総会時のキャッチフレーズの「明るく・笑顔で前進」をモットーに極力会議の場でも活動の場でも努めて参りました。



総務・行事・ボランティア・広報等があり、スタートの「興正寺お祭り」と「八事山散策」は多くの皆様に参加頂きました。楽しい会話をしながらの中、散策は皆様満足して頂けたのではないのでしょうか？毎月の行事は予定されております。が参加人員の寂しい行事も多々あります。行事は鯨城会会員相互の交流の場、親睦の場でもあります。この様な機会に積極的に仲間を作ると共に、他の活動への参加の機会も増やして頂きたいと思っております。また、今年度から正式に取り入れた一斉清掃は、多くの皆様に参加を頂いておりますが、まだまだ十分とは言えず改善の余地があります。たとえば各学区の参加数にばらつきが大きく拠点によっては人手の少ない所があります。学区集会の時等で、ぜひ皆様から他の会員への参加のお誘いをお願い致します。

新しい活動としては、社会福祉協議会の要請でシニア体操とハーブ演奏会・街頭共同募金活動・子供広場やライトハウスでの朗読会・工場見学会等を行い好評を博しました。今後も社会福祉協議会やライトハウスとの連携を深めて行きたいと思っています。皆様のご参加ご協力をお願い致します。

昭和区を知ろう

桜花学園高等学校 河合 保昌



筆者プロフィール

桜花学園高等学校教諭（地歴公民科担当）として教壇に立つ傍ら、インターアクトクラブ顧問として生徒の自主性を尊重し、ボランティアなど様々な活動に取り組んでいる。

皆さんにとって、「昭和区」ってどんな街でしょうか。閑静な住宅が多い街、学生の多い街、区内を地下鉄が十字に走っており交通の便がいい街…。そんな中、興正寺や御器所八幡宮などさまざまな史跡を思い浮かべる人も多いでしょう。どんな街なのかを考えながらも街歩きをするのもよいと思います。街を歩くと、普段見逃しがちな史跡・景色などを発見することがよくあります。これからは、昭和区の歴史をトピックス的に紹介したいと思います。お楽しみください。さて、今回のテーマは…。

鶴舞公園

「鶴舞公園」を正式に読めますか。大半の人は、「つるまいこうえん」と読みがちですが、本当は、「つるまこうえん」と読みます。でも、地下鉄もJRも「鶴舞駅」は「つるまいえき」です。ややこしいですね。この読み方の由来も含め、鶴舞公園を歴史的に探してみたいと思います。

鶴舞公園は、東京の日比谷公園と並ぶ名古屋を代表する都市公園であるとともに、昭和区の公園として区民の憩いの場となっています。この公園は、明治6年頃から整備計画がありましたが、いつも白紙状態になっていました。

そんな中、明治33年に「第十回関西府県連合共進会」を10年後の明治43年に開催することが決定されました。この明治43年は、名古屋開府300年にあたり、ビックイベントの誘致に成功したわけです。ちなみに「関西府県連合共進会」とは、「西日本の万博」のようなイベント（博覧会）です。このイベントの誘致をきっかけに都市公園の開設が大きく動き出したのです。当時、旧精進川（現在の新堀川）は、蛇行しており、豪雨の時に大きな災害が発生していました。災害を防ぐため、河川の開削が必要であり、この土砂は熱田の兵器製造所を作るための埋め立て地に利用することになっていました。さらに、当時一面の田（現在の鶴舞公園）を埋め立てるのにもこの残土を活用することになり、一石三鳥といえる計画でした。河川の開削工事は、明治38年に始まり、明治41年には、共進会開催予定地の公園埋め立てが完了しています。そして、翌明治42年に鶴舞公園として完成しました。公園名も正式に「鶴舞公園（つるまこうえん）」になりました。名称の由来は、当時このあたりは、水（水流）が湧き出る湿地帯であり、「ツル」「ツルマ」と呼ばれていました。また、この発音を美化して「鶴舞」という漢字を当てたようです。

そして、明治43年に共進会が開催されました。本館をはじめ各種パビリオンが設置され、90日間という会期に約260万の観客がありました。当時の名古屋の人口が約41万なので、その盛大さがわかると思います。共進会終了後、

ほとんどのパビリオンは撤去されましたが、噴水塔、奏楽堂などはそのまま残され、本格的な公園として整備が進んでいきます。特に正門、噴水塔・奏楽堂を軸として左右対称のヨーロッパ式庭園が特徴的ですが、公園東部の竜ヶ池から胡蝶ヶ池周辺は、回遊式の日本庭園もありました。まさに和洋折衷の公園でした。

その後、公園付属の動物園や公会堂、そして、鶴舞中央図書館などが整備され、現在の鶴舞公園の姿を見せるようになったのです。



第11回 趣味の作品展

※ 順不同

写真



朝焼けの富士山
17期 片山咲枝



どまんなかまつり
19期 余語司郎



至福の時
24期 後藤美恵子



チューリップ公園
24期 長橋正幸



万座温泉
25期 加藤和男



夏の終り奈良井の宿
20期 富田紘八郎



造形美
21期 清水敏宏



湯炊き神事
21期 後藤崇



アルプスの瞳
24期 横井純夫



山小屋
26期 長谷川信義

パノコン



写真で作る合成画像
19期 伊藤敬子

陶芸



壺
22期 佐藤邦利



明かり
24期 亀井栄子



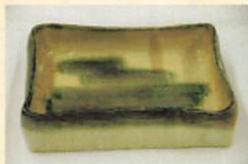
花器
24期 吉田加代子



花器
18期 櫻井達郎



抹茶碗・湯呑
13期 山口護



花器
15期 荒川孝司



おひなさま
26期 小木曾早苗



つぼ
26期 石川眞



花燈籠
27期 松永文子

水墨画



あじさい
27期 千村さと子



鮎
24期 古田栄次



黄山山水
24期 石川清美

水彩画



作品
14期 谷口千鶴子



やな場
15期 勝野弘之



秋の夕暮
25期 高木恵美子



和
25期 天野美保子



人形
18期 杉本仁



バラ
20期 奥中さと子



バラとボトル
25期 河島敏子



キッチンガーデン
25期 上澤かよ子

日本画



秋色

26期 小川栄一

クレパス画



中仙道公園

20期 渡辺晴朗



たけちゃん

25期 高木恵美子

書



亀

17期 小川博三



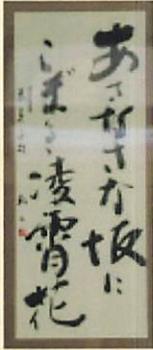
李中句 蛭

25期 三浦邦昭



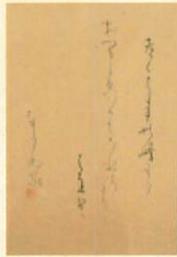
千はやふる

25期 天野美保子



あさなさな...

22期 高木弘二



小倉百人一首より

16期 佐治正夫



平常心是道

21期 古池潜



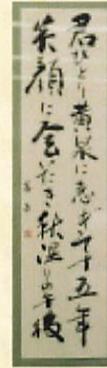
湖騒は遠海...

24期 前田恵美子



感謝

25期 下地清子



自作の短歌

25期 斎藤富子



疾風知勁草

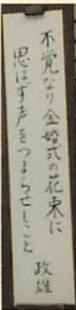
26期 稲垣幸男

短歌・俳句



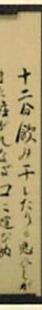
無題

17期 石橋政雄

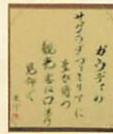


無題 (コラボ)

26期 大野俊介
26期 久保洋之

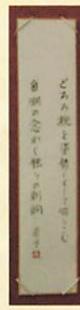


26期 大野俊介



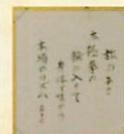
無題

26期 大野俊介



無題

26期 嶋津壽子

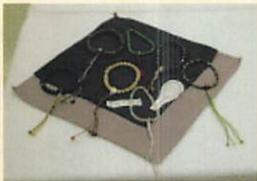


工芸



喝食 (かっしき)

24期 石川清美



手作り数珠

23期 小川多喜子



ひいな

25期 天野美保子



洋風行燈

26期 浅野かをる



廃物布よせ

13期 高瀬みちよ



ハーダンガー

17期 中西温子



ネクタイ掛け

25期 河島敏子



昭和鯨城会活動

鯨城会グラウンドゴルフ大会の成績

10月7日、鶴舞公園陸上競技場で行われ当会から12名の選手が参加しました。全市から261名が出場、楽しく真剣に競技が行われました。当会から総合優勝の上位者は出ませんでした。辻慶明さんと荒川巖さんの2人が見事にホールインワンをしました。

昭和区民まつり

10月27日(日)鶴舞公園において昭和区役所主催による区民まつりが開催されました。消防や警察などの行政機関から老人会、体育指導委員の会、外国人留学生の会など様々な団体に混じって、我が昭和鯨城会も行事に参加しました。快晴に恵まれ園内は大勢の人で朝早くから一杯。公園入口から2番目のブースに店開き、会員より寄贈された陶器販売コーナーと素焼きの土鈴の絵付けコーナーを設けましたが、どちらも一日中大変忙しかった。陶器はダンボールに7箱、さらに3人の会員が数十点の陶器を直接持って来て下さったので、売れ残るかなと思われたが時間までに見事完売しました。寄贈して頂いた皆様に厚く感謝申し上げます。土鈴の絵付けもちびっ子達に大人気でした。2万5千円程の売り上げがあり寄付させて頂きます。



第11回趣味の作品展を終わって

恒例の趣味の作品展を10月22日～24日、昭和区役所会議室において開催しました。会員47名と27期在校生2名の方々から77点の力作が出展され、232名の皆様に鑑賞していただきました。

今回の特徴はパソコンを使った合成画像、能面や手作り数珠など出展品の幅が少し広がったことにあります。

今後も皆様の多方面にわたる趣味の作品を出展いただければと思っています。心暖まる素敵な作品をご披露頂きました皆様、季節はずれの27号台風が接近しお足元の悪い中ご来場くださいました皆様、運営に協力して頂いた学区幹事はじめ、担当されました皆様にお礼申し上げます。

さて、今回の「こじょう便り」に作品を紹介しました。限られた紙面のため作者の制作意図が伝わらないと存じますが、作品展の概要としてご覧ください。

赤い羽根共同募金活動に参加

晩秋の屋下がり(11月9日午後2時～4時)鶴舞公園の正面入口前において、昭和鯨城会は赤い羽根募金活動を行いました。前回の活動は27号台風の接近でやむなく取りやめになり今回は会員8名で頑張りました。幸い桜花学園のインターアクトクラブの女子学生8名と協働することとなり、強い味方を得て道行く方々に声をからし、昭和社協始まって以来の募金が集まりました。

1月～3月の予定

● クリーンパートナー

東郊通りから地下鉄御器所までの歩道の清掃
1月22日(水)と3月26日(水) 午前9:30～

● 主要道路清掃活動

地下鉄八事駅からバス停吸場町までの歩道の清掃
2月21日(金) 午前9:30～

● マラソンフェスティバルナゴヤ・愛知2014

マラソンコース(沿道)の整理
3月9日(日) 午前9:00～

● 大須観音初詣と大須界限散策(ガイド付)

開催日 1月17日(金) 集合時間 9時30分
集合場所 大須観音仁王門前 ※希望者はランチ

● 芝居小屋 鈴蘭兩座観劇

畳敷きの昔ながらの客席なので、舞台との距離が近く、その臨場感は何十年も前にタイムスリップした様な不思議な雰囲気です。

開催日 2月25日(火) 集合時間 12時20分
集合場所 三宅眼科前(地下鉄大曽根駅4番出口)
※13時開演 入場料 1600円

● 第11回鯨城会グラウンドゴルフ大会

開催日 3月24日(月) 会場 鶴舞公園グラウンド



会員ひろば

おれの「おやし塾」

21期（地域）滝川 日比野 勝

昭和区 ボランティア連絡協議会主催で4回講座を開催し、延べ101名の参加を頂き、おやしパワー健在と感じました。講座内容は郷土史・おつまみ・ファッション・コーヒー雑学で、おやしの興味ある講座が良かったと考えています。今後はおやしのキャリアを楽しみながら、地域で活かしていきたいと思います。地域は おやしを待っています。 いつやるの？ 今でしょ！・・今年度は募集終わりましたが来年度も実施する予定です。是非、是非皆様のお申し込みをお待ちしております！



昭和区の城について

17期（文化）御器所 永田 祐千

戦国期、御器所の地は城下町だった。現在の尾陽神社がある所は、御器所西城が建っており、尾陽神社が創建された天正11年頃までは濠や土居が残されていた。信長時代には外に御器所東城、御器所南城と3つの城があった。さらに昭和区には外に川名南、川名北、伊勝の計6つの城があり、城主はいずれも佐久間の姓を名乗る人達であった。佐久間氏関係の城に山崎城がある。昭和区一帯は佐久間氏の根拠地であったことが確認される。



この佐久間氏については、「信長公記」等の歴史書・テレビドラマ・時代小説等に主役ではないが、重要人物として登場している。佐久間信盛、盛重、盛次等は郷土出身者として、記憶に留めておきたい城主達である。

ボランティア・歴史20年

24期（陶芸）鶴舞 亀井 栄子

皆様 昭和こじょう会において20年間継続のボランティア活動をご存知ですか？

ライトハウスでの視覚障害者の作陶補助です。平成5年伊勝学区5期廣江昭二様が友人と始められ昭和こじょう会陶芸学科の方々に引き継がれ、20年の歴史で現在に至っています。



今年廣江様が体調を崩され、ボランティア会員が手薄となりました。伝統の昭和こじょう会陶芸ボランティア活動が継続出来るよう、陶芸経験者の皆様 月1～2日お手伝い是非お願いします。（陶芸学科以外も可）

連絡先 24期 城戸 TEL835-3822

もず「百舌鳥の鳴き声」考

23期（生活）白金 大塚 鐵太郎

秋から冬は「キーキー」とかん高い声で猛る。縄張りを主張しているとき。春の百舌鳥のひとりごとを聞いたことがありますか？「ぶちゅぶちゅぶちゅ」と言っているが、よく聴き耳を立てると、いろんな鳴きまね（音まねかな）をしています。



鳥の声はもちろん犬、猫、子供が「おか～さん」と呼ぶ声までも鼻歌を歌うようにたのしんでいるのでしょうか。百舌鳥は基本的に単独行動の鳥なので恋人にアピールする技量を演じているのかな？私的に、このことを「百舌鳥のひとりごと」とし、春の出来事としよう。

☆☆☆☆☆ 編集後記 ☆☆☆☆☆

自然がもたらす大災害が多発、人間の営みを最優先したツケか生態系を壊し続けた因果応報？食材の虚偽表示等次から次へと暗いニュースの多い中、ソユーズの打ち上げ成功、而も日本人初宇宙船長、誇らしくワクワクします。

さて、「昭和こじょう便り」74号をカラー版でお届けします。今号には趣味の作品展の写真を掲載しました。多くの皆様のご協力を頂き発行出来ました事に感謝し厚くお礼申し上げます。ご感想ご意見など頂ければ幸いです。

発行責任者 北川 勝彦
 広報委員長 斎藤 富子
 編集協力 加藤 和男
 長谷川信義
 広報委員

松田 徳也 服部 邦彦
 河島 敏子 高木 恵美子
 小川 栄一 稲垣 幸男
 石橋 雄次 嶋津 壽子

訃報

山口 順子 様

八月九日逝去（一四期文化）八事

黒岩 一夫 様

十月三日逝去（二四期環境）松栄

松永 暉子 様

十一月七日逝去（二五期文化）滝川

謹んでご冥福をお祈り申し上げます